明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可　（日刊）　月曜及祭日の翌日休刊　明治四十三年八月廿七日（土曜日）　第四百九十三號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
本紙定價　一枚金二錢▲一ヶ月前金丹五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久紳一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

漢城より

（二十二日）　北韓山生

▲觀女嗣て「忍ぶに耻莫し」と獲男曰く「忍辱」と吾等謂らく忍辱は尊き教なり然れども忍辱は佛性にして始めて要すべきと識るべし、凡夫は先づ「忍ぶに耻莫し」の意を會得するを要せずやと。

▲自ら操行を愼みて獨り行ひ濟す者と雖ども、思はざる外侮は必ずしも絶無の事に非らず、此の時に際りて之れを忍ぶの勇氣あらば、恐らくば悔を貽すには至らざるべし、忍辱の尊きは即ち此の邊に在り。

▲「忍ぶに耻莫し」といふは之れを一面より見れば外侮を豫防する事ともなる也、即ち辱を未然に禦ぐ也、甚だ行ひ易からざる事ながら、吾等の坐臥常住之れを爲とせば應對は悔無からんか。

▲例すれば吾等は朝鮮に對して能く忍ぶべき、遠き過去は說くの要無し、最近に於て寔に能く「忍ぶべく努力」せり多く云ふ迄も無し、我國胞にして忍び能はざりせば、果して些の悔を今日に貽さゞりしならんか疑はし。

▲露骨に云へば、吾等言論の機關に携はる者の近狀に見よ、世人と共に甚だ能く忍べりしに非らずや、忍びて而して終に耻無きを今日に於て證し得たるに非らずや。

▲心無き者は吾等の能く忍ぶ事を以て耻辱とせしたりしが如し、而かも我紙が忍ばざるべからざる理由ありて、忍びて耻無かるべしとの所信を發表するや或者の如きは暗に、而かも公然誹謗をすら加へたりし也。

▲吾等は信ずる處無くして忍ぶことを他に强いざるが如く、自ら亦敢て之を爲さず、故に今日に於て下の言を爲すの事に堪へず「我が紙は能くも忍びしよ」と、實に、忍ぶに耻は莫かりけり。

▲昨雷雨到る、無上に心地好かりしが吾等殿し野地に在つて之れに遇はゞ定めて驚きもしたりしならんが、其前夜來何と無く蒸暑くして、雷雨あれかしと祈りし吾等に取りては正に嬉しかりき、天時、人事サテモ相似たる昨日今日カナ。

本年の鯖漁況（下）

（高橋水產技師調查）

▲各縣の出漁者　各縣出漁者を細別すれば福岡六組、山口三組、千葉一組、島長崎十二組、佐賀二組、愛知一組、根一組、香川一組、靜岡一組、大分一組、釜山一組にして計五十組一組人員平均四十人位なる故都合二千人なり其需要品は運搬船にて內地より供給する物もあれど多くは釜山馬山長承浦と統營にて購入せるが如し各出漁者中にての一番は香椎氏の三〇〇、〇〇〇尾二番千葉村の一七八、〇〇〇尾なり

▲漁業上の缺點　千葉は鯖網を改造して使用したるにより目合細く操業に困難なりしよし又或る縣の如きは目合は適當なりしも海丈け不明にして適合せざりし爲め魚群を逸したりとの事なり巨濟より南海に至る外海は網丈け五十三尋位が適當にて目合は五節なれば充分なるべし

▲漁獲物の運搬と販賣　運搬船の種別と船數は滊船百噸以上三隻、二十噸以上一隻、石油發動機船三隻、十噸未滿十一隻、帆船百二十隻ありて仕向先は釜山馬山統營の外內地送りは沖合より直ち博多下の關に航送せり其內博多に送りたるは多く生魚にして下の關送りは大概鹽切りと爲したり釜山馬山統營に送りし物も多くは鹽切りとなし各地へ移出したる模樣にて中には鹽切の儘貯藏し置き當盃韓人の需用に際し賣出したる者もありて是等は好成績を收めたりと曰ふ

▲販賣價格と手數手間賃　漁獲品は沖合にて各運搬（出買）船に賣渡したる者と魚市場にかけたるものとの二樣ありて高値一尾五錢四厘安値一尾一錢五厘其平均手取り高は一錢六厘なるが如し生魚の日本送りは氷代と運賃に一尾一錢五厘を要し鹽切（日人向背割り韓人向は腹割り）は割賃一厘（臟物は割手の所得となる）塩代五厘より七厘迄なればよろし此外沖競入札は手數二部を取る定めにてありしが中には相對に取引したる者も少からざりし特に本年は不意の大風にて網場及び釜山馬山統營にても鹽品切れとなり價格非常に昂騰し最初六十錢位の物後には一圓三四十錢を唱ふるに至り鹽切は高値に當りたるも盃迄持越したる商人は一尾七錢六厘の取引なき有り平均六錢二厘強に賣れ行たるよし

高橋技師曰く本調查は神戸博士の殖民視察に同行したる序を以てザット取調べたる者なれば其旨特記し置くべし（完）

清國重要の問題

清國に於ける外交重要問題と云ふべきは英米佛獨に關する粤漢川漢借款問題を初めとし英米の錦愛鐵道、獨逸の山東鐵道、葡國の澳門境界、露國の蒙古伊犁侵入問題、其他米國に對し交渉を要すべき或重要事件あり日本に對しては撫順炭坑並に間島警察撤回問題其外滿洲に於ける二三の交渉事件あり目下各國公使は北戴河に避暑中なるを以て今秋に至らば各問題は一齊に交渉開始を見るべし就中重要案件は郵傳部に關する者の多く唐尙書の手腕如何に依りては從來外務部に其責任を負はしめしものも茲に一轉して折衝の責務を明かにするに至るべしと云ふ

●北滿兵備道の新設

清國にては從來北滿には濱江海關道を置きしに過ぎざりしが今回新に西北路兵備道を設置し海關道の職務をも兼掌せしむる事となれりと

退韓記（二）

勸韓農生

柳兄足下、斯く申さば貴社長より、又たコヽの島國根性者めが抔との御叱りも有之べけれど、實際八年間も故國を離れ久し振りにて六連島を眺め候時は何んとも云ひ知れぬ嬉しさが胸に浮び候、只だ此の時は前途の心配や行先きの事抔一切忘却、仕り故る里想ひしさの餘り覺えず嬉し涙が先きに立ち申候

漸く下の關に上陸すれば、今迄キチンと合はせし時計が三十分間遲れ、之を直して新橋ゆきの滊車に乘り候ときは今迄朝鮮の廣軌なるに引換へ、是より鐵道は狹軌なる上客室の見すぼらしきこと抔話にならず、その上いろ／＼の設備や待遇抔も遙かに韓鐵に劣り居り候

雨は釜山驛に着せし時上がりて、十七日は晴天に候ひしが、滊車の海田市驛だかに達しかゝりし時、又もや雨降り出で、空には紫電閃き、雷霆殷々として風雨も刻々に劇しく相成り候、夫れより以東、滊車は沼々たる豪雨の中に車を軌しらせ、尾の道を發せし頃暮色迫りて、永き日足も、岡山にてトツプリと暮れ果て、折り／＼車の駐まる時抔、車窓の外は雨の音のみ高く候ひき、

一人旅の徒れ／＼なるまゝ給仕を呼びて櫻正宗を命じ、暫し獨酌を傾くる程にイツとはなしに目はまどろみ候ひしが、短か夜の明け易くして臥すかとすれば、驛夫の『名古屋／＼』と呼ばるゝに目を醒まされ、邊りを眺むれば東の空は早や白らみ渡れり、夫れより滊車の濱名湖畔に出でし頃、日は全く東天に出でゝ、雨も既に歇り、其の昔「見て過ぎ難し」と歌に殘りし濱名の橋の朝げしき、扨ては辨天島の奇勝抔、沒風流なる小生にもいとゞ哀れを深からしめ申し候、



講談　越後傳吉

大岡政談　第五十八回　旭堂陵南講

ソコデ何呉れとなく旅立の支度、夜に入りましてからチヤンと用意が調ふた　庄「ちやア阿父さん、これでお別を致します、隨分共に御機嫌ようお庄下さいますやうに……　庄「アヽ乃公が方は心配するな　庄藏「ハイ　庄「先刻も云つた通り呉々も健康で居て呉れ、宜いかい　庄藏「ハイ……阿母ア、マア切望阿父さんと一緒に機嫌好う暮して呉んなさい　早「庄藏どんや、不束な梅ぢやが宜う頼みましたぞ　庄藏「宜うがす　お梅サア行かう……阿母ア、それぢやア阿父アんも御健康で……　庄「ムヽお梅や健康で行けよ　庄左衛門も流石に親子の情愛でホロ／＼と涙を流す、お早も共に涙を拭きながら　早「お梅や、庄藏どんの打達の中にお前の何時もの持病の藥が入れてある、寢冷をしないやうに氣を注けて行て呉れ、宜いかい、表の戶をがら／＼と開けて老人夫婦が見送つて呉れました、庄藏お梅の二人は互ひに手を取合ふて　庄藏「それぢやア、親父さん阿母ア……　梅「阿母ア、阿父さん御機嫌よう　二人「機嫌ようて

エ……惡人ながら其儘に生れ故鄉の我居村を後にいたして、サツ／＼と急ぐ若夫婦　庄「ヤレ／＼お早や、物は一ツ違ひ損ふと甚い難儀な事に成るものぢや　早「マア庄左衛門どん、仕方がない　庄「アヽ仕方がない、乃公どお前との二人はどうなつても宜いが、彼の若い者二人だけは機嫌よう暮さしてやりてへ……オヽ飛んでもねヘ事をしたお早　「何だね　庄「庄藏が肝腎の煙草入を忘れて行つたぞ　早「マア／＼困つた事が出來たねへ　庄「又彼子が至つて煙草好きだ、この煙草入一ツでも、江戶へ行きやア買はねばならん、買ふと云やア直ぐに金子だ、ドレツ、ナーニまだ遠くは行て居まいから、乃公がこの煙草入を跡追駈て持てやるだ　早「爾だねお前樣、御苦勞だが老人の足で　庄「ナニ僅な道だ、一寸行つて來るから待てろ、宜いかい、子を思ふ親心、煙草入の一個でも節儉をさせて遣らうと、懷中に入れました庄左衛門、尻を端折り我子の跡を追駈けてドン／＼と駈出す

此方は夫婦が互ひに手を取合ふて　時しも享保の十二年十月二日の夜、何となう空合が曇つて居りますからドンヨリといたして薄暗い　庄藏「お梅、氣を注けねと不可ぞ　梅「ハイ大丈夫だよ、庄藏さん暗いね　庄藏「嫌に暗いね今晩は……アヽ失策た　梅「庄藏さん、何うしたんだね　庄藏「エ、飛んでもねへ事をした　梅「何をしたね　庄藏「肝腎の煙草入を忘れちやつた　梅「マア／＼飛んだ事をしたんだねえ、何うするんだい　庄藏「先へ行きやア行く程困るが、此所はお梅泉河原だ　梅「爾うだねえ、此所は泉河原だわ　庄藏「和女此所で待つて呉れナニ若い身體だ、一走り走つたら譯はねへ、藪際の近道から宅へ歸つて煙草入を取て來るから、一寸待て居て呉れ　梅「急いで行つてお來は、妾ア何だか怖い氣がするわ凄な淋しい泉河原で唯だ一人待つてるのは……早く行て來てお呉れ　庄藏「エヽ怖い事があるものかい待て居て呉れ、宜しいかい……」庄藏はそのまゝ尻を端折り直してドン／＼藪際の近道を駈出した、後にはお梅が唯一人、向ふは名代泉川ドッ／＼と蛇籠を洗ふ水の響、夜は深々といたして物淋しい、其上裏の暗さ來ましたから何といふてもまだ年の若い女、怖氣が立て參りましたか　梅「早くマア庄藏さんが來りやア宜いに、何うしたんだらうね庄藏さんは……早く來て呉れりア宜いのに……」獨言を云ひながら立つて居る折しもあれ庄「人殺し――ッ」といふ帛を裂くやうな叫び聲、怖い／＼と思つてる所へこれを聞いたのだから　梅「アレッ、何んな事が出來たんだらう」と身顫ひをして暗い所へ身體を入れて居る內にその聲も聞ねすなつた、スルと暫く經た頃チヤプリ／＼と泉川の水を渡つて來る者がある、この邊の人は皆馴れて居るから、橋も何にもないが歳たけ水の淺い所をチヤンと心得て居る、下は磯になつて居て水は膝節位のところ、併し怖しい流の早い所でヂヤンブリ／＼と徒步渡りをして來る一人の奴、暗黑にお梅が立つて居るとは夢にも知らないから、ドーンと其所へ何か重さうな物を卸した

東京電報

▲救恤金御下賜 兩陛下は今回の洪水被害各府縣に對し夫々救恤金御下賜あらせられ尚激害激甚地には又々侍從職を御差遣相成たり

▲清國皇族御着 清國皇族載洵殿下の一行は今二十六日長崎港へ御安着海軍よりは淺間、笠置の二艦を同地に回航し歡迎の意を表せり殿下は今夜長崎に御一泊あらせらるゝ筈にて官民の歡迎盛んなり

▲首相と記者團 桂首相は各新聞通信社の代表者を官邸に招き時局經過の概要を漏らし尚ほ發表後に於ける祝賀會開催等に就き注意する處ありたり(同上)

▲水害状況伏奏 今回水害地及び箱根に状況視察の爲め御差遣の日野西侍從は參内復奏する所ありたり(同上)

▲水害孤兒收容 今回の水害に就き一府十七縣に亘り多數の孤兒を生じたるが西本願寺にては岡山に經營せる孤兒院外三十二箇所に六百名を收容する事に決定せり

▲韓國沿岸貿易 韓國の沿岸貿易は列國に對し開放し居りたるも我國は新條約に基き之れを禁止すべきも或形式を以て事實は保留すべしと(同上)

▲陸軍將官更迭 第四師團長土屋中將は二十六日を以て定期年限滿了に付き大將に昇進後備役仰付られ第十二師團長淺田中將其後任に第十師團長安東中將第十二師團長に親補せられ臺灣第一守備隊司令官及小泉少將に昇任の上第十師團長に歩兵第五聯隊長歩兵大佐野島忠孝氏少將に昇進の上臺灣第一守備隊司令官に補せらるゝ事に決定し本日發表の筈なり(同上)

▲公債發行條件 既電の如く政府は時局解決後特種の公債を發行する事に決定し近日緊急勅令を以て發布せらるゝ筈にて其條件は左の如し(同上)

一、特種公債は三千万圓を限り發行する事

二、該公債に對し年五分の利率を附する事

三、据置期間と五年とし償還期間は五十箇年以内に隨時償還する事

四、公債は凡て記名式にし其所有者は他人に對し賣買 與質入及び抵當の設定を爲すことを得ず但し家督相續人に讓與するは此の限りにあらず

▲横濱市長當撰 横濱市長撰擧は緊急市會を開きて擧行せるが桂首相の推薦による現長崎縣知事荒川義太郎氏當撰し年俸一萬二千圓と決す(同上)

▲長與博士の授爵 醫學博士長與稱吉氏に對し亡父專齋の勳功に依り男爵を授けらる(同上)

紐育電報

▲ルーズベルト氏西部遊説 ルーズベルト氏は明日より西部諸州遊説の途に上る筈なるが共和黨叛逆連の政治主義は氏によりて公表せらるべし

▲布哇韓人不穩 布哇りフエーハナマイル耕地の勞働に從事する數百名の韓人山奧に集合し密議し二日間休業せるが不穩の擧動ある模樣なり(同上)

▲日本醬油需要 米國に於る日本醬油の需要は一昨年四十万圓なりしが昨年は六十万圓に達し本年は益其の輸入額を增加する實況也

▲革命軍の勝利 中央亞米利加ニカラグワ國革命軍は首府マナグワを占領しエストラザ將軍は大統領を宣言しマナグダ將軍を捕虜とせり(廿六日)

地方電報

▲平壤新聞の停止 平壤新聞は治安に妨害ありと認められ本日發行停止を命ぜられたり(廿六日平壤發)

雜報

寺内邸の茶話會

寺内統監は二十六日午後四時より在京の新聞通信社長並に特派員を官邸に招待せられ先づ山縣副統監の挨拶並に一場の談話あり次いで寺内統監よりも一場の談話ありたる後別室に於て饗宴を開かれ一同盃を上げて正副統監の健康を祝したり詳細は後報すべし

やまと新聞事件

やまと新聞社が當地支局をして不法の出版物を配付せしめたる件は其後南部警察署に於て訊問中なるが愈々其事實判明せるを以て當局者は出版法違反の行爲として該關係畑尾健順、藤澤治三郎氏を告發し檢事局へ送致せりと

梅博士の逝去公表

昨紙所報の梅博士は藥石効なく遂に二十五日午後一時逝去されたる旨公表せり遺骸は火葬に付し東京に送還する筈なるが博士の門下生及舊知友の人々は一昨日來天眞樓に集まり萬端の手配に力め居れり

風紀振肅の要義

近く猛烈なる風紀取締は殆ど絶對的にして尚は進んでは陰微非行の媒介者たる待合業をも根絶せしめんの意向なりとか而して今度の擧は單に風紀濟肅に止まらず其最大要義は堅實なる社會を構成するに在り由來居留氣質とも稱すべき輕佻浮薄の風は斷然として今尚ほ舊套を脱せざるのみならず今後益助長せられんとするの風あり是れ畢竟するに地方的關係よりして各個自戒の念に乏しく從ふて社會觀念の稀薄するに由るとは云へ是等惡風を助促せしむる醜惡機關の力與つて力あるなり故に先づ是が最大禍根たる醜業者の横行を杜絶し輕浮なる居留地間の惡風を刈除すると共に質實なる氣風を涵養し以て健全なる社會の發達を期するにありと云ふ

●鹽田使役夫の貯金 度支部臨時財源調査局にては廣梁灣及朱安天日製鹽に從事する常傭の韓人鹽夫に貯蓄思想を養成せしめんが爲め朱安は客年八月より廣梁灣は本年六月より郵便貯金を勸誘せしが頗る好結果にして貯金は毎月給料支給の當日其支給額より引去りて貯金し通帳は其時々本人に閲覽せしめ居れるが韓人夫の意向頗る良好にして各貯金高の增すを樂み通帳を閲覽する時の如き殊に喜悦の色あり將來益々好成績を得るの見込あり現在の状況を擧ぐれば左の如し

韓人鹽夫貯金状況(八月廿五日現在)

	廣梁灣	朱安	計
毎月一人の貯金率	日給二日分	金一圓	
現在貯金員	百五十一人	十九人	百七十人
現在貯金額	二百卅二圓七十錢	百二十六圓四十錢	三百五十九圓十錢
現在最高一人貯金高	二圓廿五錢	十六圓二十錢	
同最低一人貯金高	四十五錢	二圓	

●教育奬勵費の使途 地方費より各道に支出す可き教育奬勵費は總計二千九百十七錢なるが此の費額は如何なる費途に使用さるゝやと謂ふに講習會、教科書購入、教育展覽會或は褒賞費となり教授用幻燈機購入費たるは其の重なる者なりとの事なれば之れより地方教育の益々發達するに從ひ該費額の増加は蓋し當然の事ならん

●山崩れて田畑埋沒 平安北道慈城郡西海三興一面に於て去る三十日降雨の爲め各地丘腹崩壊し附近の耕地約五十二町二反歩を埋め尚は農作物千三百餘圓外に家畜の損害百五十餘圓にして目下慘状を極むと

●虎列拉病發生通知 關東都督府より統監府に達したる電報に依れば牛莊より太沽を經て廿五日大連に入港せる山東丸船員一名眞正虎列拉に罹れるを以て開港檢疫の上發生せり尚は營口にては多少同患者ある疑有

●故梅博士の追悼會 故法學博士梅謙次氏の爲め小宮、倉富、俵其他の參與官等發起となり二十八日南山倶樂部に於て追悼會を催すと

●韓國兩班儒生調査 二十六日警務總監部にては京城各部警察署へ兩班儒生にして六十歳以上六十五歳未滿六十五歳以上七十歳未滿の現在數至急取調べ報告すべき樣内命せり

●梅博士の特旨叙位 梅博士危篤の報東京に傳はるゝや博士生前の功勞を思召され特旨を以て位一級を進められ從三位に昇叙されたり

●興王冊封式の繰上 過般興王に封ぜられたる李載冕の冊封式は九月三日執行する筈なりしも都合に依り來廿八日擧行することとなりたり

●記者歡送迎宴會 京城記者團有志は今回東京に歸任する日韓通信の井上藤三郎氏及び目下來京中の内地各新聞特派員を廿五日夜花月に招待したり

●佛國副領事官補 佛人デエー、マルボンヤン氏は今回領副事官補に任せられ京城駐剳總領事館在勤を命ぜらる

●掘帆驛の乘降客 廿五日の分如左 乘客 二等六人三等百六十八人 降客 二等十七人三等二百四十七人

●森脇警部の歸京 新聞檢閲の爲め下の關へ出張中なりし警務總監部の森脇警部は二十六日夜歸京したる筈なり

●志村氏の倫敦行 釜山居住の志村作太郎氏は一兩日中出發倫敦に向ふ筈

●京城通信の解停 發行停止中の京城通信は昨二十六日解停せられたり

地方勸業の狀態

地方に於ける勸業狀態に關し當局者の示す處に依れば各道中勸業機關の多く設備され居るは平安南道にして農林講習所、農事試作場、養蠶傳習所、物産陳列場、及講習等此の經費八千八百八十八圓なるが設備費の最も多額なるは忠清北道にしは模範農場の爲めに要する金額は一萬三千三百八十二圓なり其他漢城府京畿道の所管にて農事講習會養蠶傳習所、忠清南道にて農具使用傳習、全羅南道にて農事講習會、水産講習會、慶尚南道にて物産陳列場、農事講習會、黄海道にて農事講習會、蠶業講習會、林業講習會、物産陳列場咸鏡南道にて養蠶傳習所、農事講習所、咸鏡北道にて農事試驗所等設置されあるが之に依りて之を觀るも尚は審來に於ける地方人民の産業の一班を窺知するに足る可しと

天日製鹽の失敗

度支部は韓國財政上酒、煙草、鹽の三種に對し行く〳〵は是を專賣とし有力なる財源に供すべく庶幾し臨時財源調査局をして之が調査研究に力めしめつゝあるが以上の内鹽は其消費額三億五千万斤を算するに韓國の産出額は二億五千萬斤にして剩餘の一億萬斤は之を輸入に仰ぐの有樣なれば其將來は最も有望なりと矚目され玆に一大計劃を立て百十六万圓の巨額を支出して隆熈三年度より三箇年繼續事業を以て平安南道廣梁灣に千餘町歩の鹽田を開設せんと目下工事中にあり然るに當初此計劃を定むるに就ては專門學者の意見等には餘り重きを措かず唯だ一圖に財政上の都合のみにて事を決したるの傾向あり聞は財源の涸渇に是れ汲々として漫然臺灣關東州の例に傚はんとせしもの次第なれば其事業は未だ完成を告げざるに早くも失敗の聲を聽くに到れるは蓋し當然の結果にして目下度支部當局者は之が善後策に就き夥からぬ苦心を重ねつゝあり該事業は昨年度に於て二十二萬九千五百八十七圓及本年度に於て五十萬五千四十七圓を支出し明年度は四十二萬五千三百六十六圓を要すべき計劃なるが既に支出したる結果により其成績を斷ずるに前途大に懸念に堪へざるものあり然れはとて今更之を中絶する譯にも行かず旁々當局者は其善後策と謂はんよりは寧ろ如何にせば糊塗彌縫し得べきかに就き頗る苦慮し居れるが如し而して聞く處によれば韓國に於ける天日製鹽の適否如何は大に議論ある由にて學術的見地より見れば到底其見込なきものと評されつゝあり殊に吾が日本に於ける鹽業は内地臺灣共に政府事業となり其供給は既に需用總量を超過し近く鹽業政策は一大統一を計るに非ずんば確定の收益を收め難き有樣に在り此際不適當なる韓國に於て之を强行せんとするは迂も亦甚しく結局相互の扞格を招かれざるべし故に鹽業問題は到底失敗に了るべしと云ふ

●韓國牛皮の改良談 韓國牛皮改良の件にて渡韓せる東京高等商業學校教授豊丸勝次氏が釜山牛皮輸出商組合の招聘に應じ牛皮改良に就て講話をなせし大要左の如し 日本に於ては牛皮の需要頗に增加する今日其の産額の尤も大なる又其缺點の多き韓國牛皮の改良は急務なり而して日本に於ける製皮の進歩は近來非常の發展をなし已に過般も英國に日本の製靴を送りたるに大に好評を博し原皮の買入れを申込來りたる如きあり現に牛皮の改良は益々急務にして其の改良すべき一二の點を擧ぐれば

一、屠牛の際刀疵を付けざる事

二、皮に肉を殘さざる事

三、乾燥に付き從來の如く大地に直接晒し天日に乾す爲め水分を去る事を得ず爲めに皮は疵多くて製革上甚だ不成績なりとす故に食鹽を施して乾燥するを良しとす

以上は大体の改良にして其他種々の方法あるも現に角以上は最も改良を要するものなり云々

●平壤手形組合成績 昨今平壤手形組合にては例年の如く事務閑散なるが來月に入らば農作物の收穫と共に鐵道沿線の荷動きありて相當多忙となるべく目下のところ保證貨物の主なるものは小麥、籾等なり同所八月中旬成績即ち如左

前旬末保證現在額	一六九九一五、九〇
本旬手形保證額	二二四一一、〇〇
本旬手形支拂額	二一九八五、六〇
本旬末保證現在額	一六九三四一、三〇
前旬に比して減	五七四、六〇

●釜山驛の開場延期 九月十五日頃を以て開始すべく傳へられた新線釜山驛は目下疫病流行の折柄なれば惡疫熄滅の時を期して開始する事となり當分無期延期となれりと

公人私人

▲岩田孝慈(公州地方裁判所檢事)二十五日入京巴城館に投宿

▲辛島清(辯護士)同上浦尾へ

▲玉橋市三(鐵道院技師)同上

逝ける梅博士(一)

法學博士梅謙二郎氏は不幸癒瘍の侵す處となり別項の如く二十五日正午大韓醫院の病床に逝去されぬ吾國唯一の民法學者として又法制の基礎確立に至大の功勳ある博士を喪へるは回收すべからざる一大損失なりとす今玆に博士の生前に殘せる逸話を記述して其學德高風を慕はんかな

●博士は非常の勉強家にして然かも其精力の絶倫なる實に驚く可き程なり帝國大學の教授として又法政大學の校長として更に又他に幾多の公務に鞅掌するも嘗て倦怠の色なく多々益辨じ去りて尚ほ餘力あるに到りては何人も驚嘆し居れる位なり

●元來博士は民法學者として議論の方面に精しきのみならず實地の法文に明かにして數千條の民法を悉く暗んじ居れる位なり殊に博士は辯舌爽にして巧妙にして此點に於ては大學教授中一人の能く博士に及ぶものなく現に大學生中博士の講義を聽かんが爲め總々修學期間を休み博士の出演を待てるものさへありたる程なり

●而して博士の一たび講座に立つや流暢なる此辯舌を藉りて說き去り說き來ればいかに初心の者と雖も會得に苦まざるなり嘗て大學以外の有志に招請され民法の講議を試みられたりしが彼の浩澣なる民法の千條を縱橫無盡に解剖して聽講者をして遺憾なく咀嚼せしめたるは何人も知る處なり

●又博士は司法省法律學校の出身にして卒業後佛國留學を命ぜられ里昂大學に在りて法理の深邃を究め同大學法學博士の學位を得たる實際博士の提出せる論文は和解論にして其學力既に群を拔き流石の佛國法學者も爲めに舌を捲きたる程なり此事時の大統領に聞ゆ特に勳章を與へられたるが論文を提出して勳章を贈與されたるは空前の事なり

●夫れより博士は佛國を去り更に獨逸に二年間留學を命ぜられ世界的大學者として歸朝し大學に又和佛法律學校に教鞭を執られしが博士の同僚と雖も其學力の深厚なるに推服し梅の講議を聽くは何より樂みなりと喝采されぬ

●博士は學者として既に一流に位するのみならず個人として其人格の高崇なる人皆欽仰する處なり博士は能く門下を愛し各其技能に應じて出仕の門戸を斡旋し現に樞要の位地に在るもの擧げて數ふべからず之が爲めに博士の逝去を聞きたる門下の人々は孰れも親父の訃に接せるの心地して哀み居れりとは左もあるべし

●更に博士は交際家として實に堂々たる紳士の好典型なり則ち能く然諾を重んじ又如何なる人も一たび博士に觀接すれば其高風に心醉すべき程なり故に社交に於ても令名嘖々として其範圍も亦多方面に渉れり博士は他の滔々たる學者の癖なく到る處に交際を有せり

▲京城手形交換高▼

八月	金高	枚數
廿六日	八五、八八八、〇九	二三四

▲仁川米豆取引所▼

▲前場(廿六日) 十月限一節九圓四十五錢四十四錢▲二節九圓四十五錢▲三節九圓四十七錢四十八錢四十九錢▲出來高千七百五十石

▲後場(廿六日) 一節九圓五十錢二錢三錢▲二節五十三錢▲三節五十二錢三錢▲一方出來高千百石

▲大阪期米電報▼

▲前場(廿六日) 八月限寄附出來不申▲九月限寄附十四圓三錢▲十月限寄附十四圓十四錢

▲八月限止十三圓六十九錢▲九月限止十四圓十七錢▲十月限止十四圓十七錢

▲後場(廿六日) 八月限寄附十三圓七十錢止不着▲九月限寄附十四圓〇六錢止不着▲十月限寄附十四圓十六錢止不着

▲龍山雜信▼

▲從來龍山停車場構内に設けありし巡査派出所は今回新龍山を憲兵分隊の所管に移されたると同時に廢し同所は憲兵の休憩所に充つることとなりたりと

▲韓鐵管理局にては從業員の爲めに鐵道救濟會なるもの組織されあるは遍ねく知られたることとなるが今其の内容を聞くに會員は毎月俸給の百分の三を會に拂込み官より百分の二に相當する額を補給し會にて之れを貯蓄し置き會員

▲治外法權▼

時局の解決に掛ると共に何か騷ぎでも起りはせぬかと憂慮した連中もあつたが目下のところは至極平穩無事の樣だ、併し油斷は大敵、決して高枕安臥は許しませんぞ▲半島に對する帝國政府の措置に就いて列國の態度が此際同情的なるは寧ろ當然の事だ、今後の要は我半島の經營振りが列國をして失望せしめぬ事だ▲時局に關し言論の取締が嚴重になつて内地の新聞迄が大分押收された、斯く迄言論を取締まるの要があつたかドウかは暫く措き、世評とか何さか下らぬ事を氣にせず自家の思ふ通を斷行したのは憎に寺内統監にして出來たことだ、聞けばモー取締を寛大にするソウだが寛嚴宜敷を得させるのは當局者として當然の措置だ▲やまと新聞の所謂號外は其配布した意味に裏に裏があるようだ、成程考へて見ると、ソウとも肯づかれる、世事はエテシテ複雜なものだ▲京城日報取扱の内地水害義捐金が大分纒まるようだが結構な事だ、此種の義金は邦人からばかりでなく韓人からも廣く出さすが良い、數千萬圓と云ふ半島經營費を惜ねず出して呉れる内地人に向かつて聊かなりとも恩返しをするのは今度の樣な時だ▲イツも政變の際には所謂自稱浪人なるものが頼まれもせぬに飛んだり跳ねたりしたものだが今度と云ふ今度は手も足も出せなかつた、浪人……無學無智にして貧乏なる浪人汝の生命はモーあがつた▲久敷行惱んで居た南大門外街路取擴げ工事が愈々始まるソウだ、工事の案が幾つもあるソウだが何でも金が尠なくて路の良くなるのを採用するが必要と思ふ。

外人の視たる半島 右記事本日休載

●江原道地方の農作 る分は九分の收穫ある見込なるも火田なるも頃日來朝夕冷氣を感ずる爲め農民は一般に氣遣ひ居れり 牧畜あり大小豆は概下の[illegible]にては九分の收[illegible]にして粟は當來の如に作りた

●救護軍艦淀の更代 [illegible]代して木浦へ入港したり

●江原道地方の農作 [illegible]に於ける[illegible]作柄にして[illegible]收穫あり大小豆は以下の[illegible]にては九分の收穫にして粟は當來の畑に作りたる分は九分の收穫ある見込なるも火田は三四分の減收となるべく稻は成育良好なるも頃日來朝夕冷氣を感ずる爲め農民は一般に氣遣ひ居れり

●救護軍艦淀の更代 [illegible]なる軍艦淀は二十五日午後和泉艦と交代して木浦へ入港したり

朝市から長谷川町

▲よろつ記　ぼく

僕と君と二人連れで朝市から長谷川町邊をとて立ち出でたのが廿六日の午前六時、電車、馬車、牛車、人車、人、犬なぞが蹴揚げ捲き返す塵埃の中を縫ふ、龍山行きの電車が三臺と云ふもの南大門の所に止まつて居るので向ふ側の韓商家五六軒は營業停止の狀態に居る此方側には既に果物野菜等を商ふ韓人及日人菓子商玉子商人なぞが店を擴げて居る青き赤き白き紫の色色目もあやに美しきこと限りない南門邊の橋に立つて北米倉町の方を見渡すと往來の人絡繹として回り燈籠を見る如だ、橋を越へると雜踏は一層である、僕の悠々闊步するに引き換へ君はチョコ〳〵然たり、戰々兢々マゴ〳〵然として進む、行く手の方より三十二三の男と妻君ではなからう妹と見らるゝ二十一二の美しい女とが伴れ立つて來る、見ると兄さんは何にやら小さな木の枝を持つて御座るのに引き換へて妹さんの方は茄子や瓜や菜の葉やを包んだ醬油樽程の包を提げ富士とも見ゆる生へ際に汗を滲ませて喘ぎ〳〵跡を追ふ隨分酷い兄さんだと思つた、併し彼れが日本人一班の習慣だから詮術がないと君が云ふ、要するに君も妹があつたら彼の通り虐待するのだなと思つたら君の面の格構が更らに醜く見へたのでツク〳〵醜い面だナアと私かに感心して居ると「ユンカミさん擔夫不用」と小擔夫君が隨いて來る、オヤと驚いて自分の手を見たが何も提げて居ない君の手にも同樣何にも見當らぬ「何にを持たせろと云ふのか」と僕が反問すると小擔夫君の答へが頗る簡にして要を得た曰く「何んでも」至極氣に入つた許りか崇高なる一種の啓示に接した如な氣がした、即ち懷を探つて白銅一箇を出し「今日は持たせるものが無いから此れを持つて行け」とて與て日の丸市場の前に差し掛る、見ると未だ荷が入らぬので二十五六人の屈強な連中が魚を列べる板の上にヅラリと腰を掛けて張店の型、ダガ何れを見ても山家育ち皆秀才の成れの身代りに立ち相なのは見當らぬ、隅の方にアワビが六つ七つ物淋しげに積まれて居る、往く人も來る人も野菜を仕入れて重さうに提げて居る、擔夫は空身で寥しくウロ〳〵して居る、日人の極端なる勤儉は擔夫の職を奪つてる如な心持がした、長谷川町派出所の前に人が黑山をなして居る、君を促して行つて見ると支那巡査が一人日韓人巡査三人が日人勞働者風のものゝ中立てを聞いて居るらしいが事情は判明せぬ、長谷川町に曲ると富田洋服店から息子さんだらう五歳許りになるのが橫ッ飛びに飛び出した、足つきが變なので何うしたのかしらと見ると右の方の下駄の橫緒が切れて居る子供ながら僕の見た原因が判つたと見へて僕の顏を見上げてニッと笑つた、可愛らしい子だと思つた、大聖教會から婦人が四名ゾロ〳〵と出て行く、太平町の方からアンペラ帽を冠つて車に乘つて來る人がある兵營の前から大將邸の步哨の前まで續けでの大欠伸をして居る君も頗る感心して居た如だが「アー腹が空つた」と仰云る、急いで歸る目についたのに「をんどろあり」の貼札をんどろ……何んだか恐ろしいものゝ如に感じた。

不人情な德さん

▽女房を離緣せんとす

太平町の永樂亭と云へば界隈切つての魔窟なるが同亭主は末永德次（二十九）と云ひ實家は相當の資產家なれば此の頭の不景氣も夫れ程に悲觀せず至極暢氣な容子なるが小人閑居して不善を爲すの譬に洩れず北米倉町に住居へる何勝次郎の娘みつ（二〇）とて四十二年十一月より十二月迄龍山電話局交換手たりし當時憲兵さんと何んしたので勝次郎は棄て置けずと同所附近に居る古閑某を中に入れ立派に手を切らせし後は離山なぞへ行つて置いたが手脫りと傳手を求めて韓國側の某役所の交換手に奉職せしめられ居るモシ〳〵式部に目を付け韓人が甜瓜を買ふ時よろしく盛んに尻を廻で居た內トウ〳〵說き落して我が物とはなしたりけり、ける程にさる程に此の事德ち女將はつの耳に入りしにぞ何條默つて居るべき或日勝次郎の妻に向ひ貴家所の娘さんは却々の働き手ですね月給許りか他の亭主まで[illegible]れ取になるホントーにお偉いワネーと馬鹿に力を入れて褒めたが褒められた方では一向嬉しがらず乙なことを仰云いますね左樣仰云るには何か證據がありますか有れば見せて下さい餘りな事を云ふと其の分には濟ましませんとの劍幕左樣云はれて見ると所れと云ふ證據のないことなれば結局何うも相濟みませんと謝罪つてける程なれば其後可怪かりける噂の立つ筈はなかるべきに益々人の評判が高くなる自然勝次郎の耳にも入つたので娘を責めて見ると實はとある實は何うしたのだと聞く迄もない娘の不心得今更永樂亭の女將に會はせる顏もない始末に又候古閑君を煩はして以來關係せしめざることを條件にはつ女將に謝罪たのでけりは付いた筈の處れみつ女郎親の心を知らず德さん女房の心を知らず相も變らず親ぢ女房の眼を忍んで居たりける程に因果は覿面れみつ可憐や見るものを見ざること茲に三ケ月とこうはなつたりけり、又げる程に德の奴事既に茲に及ぶの毒皿主義に變じ女房を放り出さんと掃溜を覗いた乞食の如アラはアラは探して居る此の頭のこと外から歸つて見ると子供一人寢て居てれはつの姿が見れぬ何うしたと聞くと二階で妓輩を相手に八々だと答へたものあり之を聞いた德さん平常なら己も一番とあるべきを胸に一物あることとして威丈高になり子供一人下に寢かして八々なんどゝは言語同斷不取締りにも程こそあれど新聞で見たことのある七六ケしい文句を並べ離緣だ〳〵と騷ぎ回るので近所の同業者連も捨て置けず若し子供一人を寢かして八々を行つたと云ふことが離緣の口實となるなら女房を一人家に置いて外で彼是のあれ前は何うだ手落ちはれ互ひだ我慢しなさいと說いて見たが判つても判らないで夫れでは三百圓つけるから離緣さして呉れと云ふのも實はと來たので今度は女房の弟の隣のうどんや承知せず目下ゴタ〳〵最中なりと頭痛持ちの三面子人の病氣を頭痛に病むこと斯くの如し

●繪葉書の誕生した國

繪葉書の起源に付ては諸說區々として甚だ一定しない、或は一千八百八十八年獨逸伯林に住める或工業家が廣告の爲に使たのが初めだといひ或は一千八百八十四年（明治十七年）伯林に於て既に今日と同樣の目的に於て發行せられて居たといふ人もある或は千八百七十年の獨逸に於て發行せられた事があると主張する人もある今の處では第二說が事實上一番有力なものらしい、然し此年が起源といふのでないから、或は第三說のやうにズット前から既に存在して居たのかも知れない、要するに繪葉書は獨逸に始まつたらしい。

殺人未遂犯の公判

▽本町の刄物騷ぎ後聞

本町一丁目裏通り石井ひさ方兵庫縣人八百屋業八木儀之助（三一）若草町一丁目宮前友太郎方愛媛縣人今川良左衛門（三一）廣島縣人當時本町七丁目二十三番戶の三大工職石田國松（三九）の三名が七月三十日午後八時頃國松居宅溫突內に於て花札を使用し賭博をなし居たる內良左衛門は所持金を悉く取られたるより兵兒帶を典質して勝負を續けん事を求めしに儀之助は之を拒み互に口論を初め格鬪に及びしを國松外一人が仲裁して取り鎭めたるに良左衛門は憤慨して居宅なる宮前方に歸り長脇差を携帶し再び儀之助に出會の上怨を報ゐんと同夜九時頃本町七丁目京城座前一六號實所前にて兩人出會したるに儀之助は仕込杖を持ち來り兩人共拔刀し之を振廻し大騷動を起したるが其の際仲裁人の左肩に負傷せしめたる折りしも警官通り掛り取押へ大事に至らざりし事件は豫審終決して昨二十六日河村檢事の手にて起訴せられ八木、今川の兩人は殺人未遂並に賭博犯石田は賭博犯として公判に付せられたり

事務員二名殺害さる

▽携帶金三千圓奪取

枝光製鐵所々管載寧鐵山の事務員箕浦謙氏は濱田福馬氏と共に廿三日砂利院に赴き同地農工銀行支店より金三千圓を受取り午後載寧鐵山への歸途暴徒の襲擊を受け二名共殺害せられ金員は悉皆奪取せられたるを以て憲兵、警官は目下嚴重に犯人搜索中

●掏摸親分の退仁

和歌山縣海草郡加太町通稱幸太事松田幸太郞（四〇）と云ふ掏摸の親分は先々月頭より大連にて下宿屋を營み一方子分等と盛んにスリを働き居りたるも近頭の不景氣にて甘き仕事もなきまゝ去月二十七日頃腕利きの子分熊公鐵公村上を引連れ安東縣を經て京城に入り日の出旅館に福岡縣平民森田幸吉と僞稱宿泊し鵜の目鷹の目にて好き鳥もあらんかと市中を徘徊中時節柄とて子分共は何れも警部に檢擧されたれは親分松田は廿四日午後四時頃仁川に來り一仕事を爲し商飛せん計畫にてパン三斤砂糖一斤を所持し徘徊中烱眼なる刑事の爲めに忽ち拘引嚴重なる說諭を受け昨日鷹取丸にて大連へ放還さる

●日韓人の大立廻

と云つたとて大事件に非ず去る廿一日夜九時卅分頃東京本所署へ十九名の韓人が押寄せ何事か陳述するより阪本觀察係が取調べると彼等は本所區綠町一の四朝鮮飴商小林榮次郎方賈子李元先（三八）朴水伊（三二）外十七名にて、來署の理由は此日主人榮吉の實弟河口精吉（三七）と朴水伊とが相撲を取り朴が勝となりたれば韓人は拍手喝采し母國語で清吉を嘲笑するを同じ賈子の今井市之助（三九）外三名が大に怒りて打つて掛り爰に日韓人の大立廻りとなり双方より負傷者を出したるより主人榮吉が仲裁したるに韓人側は仲裁方が不公平なりとて憤慨しさてこそ同署に訴へ出でしものと判然り關係者を呼出し說諭の上引取らしめたりとは笑止千萬

●發狂酌婦の放逐

彼の殘酷なる繼子虐待にて有名なる長谷川町料理屋菊の江にては酌婦きくゑ（二〇）が去る二十四日より突然發狂せしとて何等保護を爲さずして放逐したるよりきくゑは明治町一丁目目下營業停止中の西部秦吉方に保護中の所內地に歸省せん考にて同家を出で一昨二十五日午前十時頃南大門停車場附近を彷徨ひつゝあるを派出所巡査之を認めて南署に連れ來り保護中明治町二丁目櫻井靈より保護す可き旨申立に付同人に身柄を引渡したる由なるがきくゑは右手拳部に欣衝を起し苦病を感じつゝあるが右は菊の江の主婦が毆打せしものなりとは甚だ不都合と云ふ可し

●吉原で御用

龍山岡田組會計主任たりし村上幸三郎は會計主任中帳簿を胡魔化して數百圓を消費し尙ほ豫備金四百圓を拐帶逃走中二十五日吉原遊廓にて逮捕されたり（二十六日東京發電）

●瓦を盜て三ケ月

明治町三丁目九番戶武藤惣三郎方福岡縣人土方職奧村喜太郎（二九）が工事に雇はれ從事中韓人人夫と共謀し瓦及古材木を竊取し之を賣却費消したる事件は既報の通りなるが一昨二十五日懲役三月に

●危險い自轉車乘

明治町一丁目精肉商山田增太郎（二十）は自轉車に乘り通行中南部會洞梧枝洞七十八統九戶鄭德成（九）に乘り掛け頭部を負傷せしめ被害者は安東病院にて治療を受け加害者は說諭放還さる

京城歌舞伎座　青山少女音樂隊

●畜犬者の不注意

龍山町三丁目六番戶竹原一郎方飼犬は同町村七李次郎長女こう（十二）に咬付きたるより檢診せしに狂犬病にあらざるも飼主には嚴重注意を與へたりと

●お遊びなさいな

熊本縣人當時青坡町料理屋遊鶴亭鬼塚ちも（二十）は酌婦堀田すま（十九）をして行人に遊興を强ひせしめたる廉にて告發せられ双方共目下西部署に於て取調中

●敷島の損害

三十七八消費金（百六十五圓五十二錢）一人の齡四圓四十七錢强

●正誤

本月二十四日貴社發行の京城新報第四百九十號（紙上には誤て四百八十九號とあるも這は第四百九十號の誤ならん）第三面雜報欄內に「營業停止中の營業」と題し小生に關する（紙上には本田嘉平とあるも這は小生を指したるものならん）記事揭載有之候得共小生は大東きよなる者を僞き淸國に連れ行かんとしたる等の事更に無之右は世人の誤解を招き掲て小生の信用に多大の影響を及ぼし候に付此全文を掲け小生に關する記事御取消相成度候此段申入候也

明治四十三年八月二十五日

淸國盛京省[illegible]江口當時京城北米倉町愛知館滯在　本名嘉市

京城新報社御中

目と耳

▲壽座　合同劇廿七日の代り狂言は「落語家の失敗」三場大阪名物喜劇「吃又平上るり入り」一場喜劇「ダイヤモンド」四場「滊車の進行三段返し」

▲浪花館　廣八一座廿七日代り番組　御祝儀の入船（入登）鏡山六ツ目（廣吉）忠臣藏二段目（越濱）東天紅（此重）白石噺揚屋の段（此千代）三十三所壺阪寺の段（仙春）御所櫻辨慶上使の段（隅照）日蓮記勸作住家の段（越春）忠臣藏八段目本藏下屋敷の段（廣八）大切忠臣藏六段目（綱掛合）三味線（豊澤仙平）

今日の運勢

八月廿七日　舊七月廿二日　六白佛滅甲子定△一白隆運の日大抵吉建築勳土旅行婚談に忌む△二黑婚談共同組合仲裁請願に吉貸借及不動產上の事に忌む△三碧新事旅行見合せの事談合婚談組合共同運盟の事見込なし△四綠諸事手控へ事金品授受取引證券帳簿の事故障あり△五黃失錯多き日とす紛爭不和遺失避くべし△六白疑惑にわふあり肉慾情挑發され易き日とす新事旅行宴會事見合せの事△七赤遺失盜害を戒しむ新事見合せの事不動產上の事及建築勳土に吉△八白部下配下の事煩累係累あり建築勳土に忌む△九紫親疎に拘らず人の爲め煩累損害受け易き日とす證券帳簿の事及金錢遺失を戒しむ（本町五丁目三一館判斷）

●天氣豫報（自廿六日午後六時至廿七日午後六時）

南風曇少雨後晴

廿五日（華氏）最高溫度八八、七　最低溫度六九、四